

「東京真田町の会」会報

日本タボス

2号



「東京真田町の会」一年の回顧と展望

会 長 小林 孝雄



昭和六十三年九月、「東京真田町の会」が設立されてから、早くも一年が過ぎました。この間、昭和から平成へと変わり、日本の国際的責務も益々重くなりつつあります。

私共「東京真田町の会」会員は、故郷真田町との心の絆をさらに固くして、相互の親睦と交流を一層深めて参りたいと存じます。

期待する町づくりのために

真田町長 若林 康朗



激動の平成元年も師走になりました。東京真田町の会の皆様には、御家族共々御清栄のこととお慶び申し上げます。

「東京真田町の会」発足二日目、去る九月二日には、上野池之端文化センターで二〇三名の多くの皆様の御出席により盛大に第二回の総会が開催されました。皆様とふるさとの親交を温め、共々、一層の感動を新たにしたいところであります。

この総会の様子を「東京真田町の会」の副会長の清水清晴様より詳細に月刊誌「信州の東京」の県人のつどい欄に四ページにわたり御掲載いただき感銘いたしました。「東京真田町の会」の皆様がお寄せいただいたております「ふるさと真田町」への郷土愛と情熱の卒直な御気持ちに、私は、単に感激と敬意の気持ちだけではなく、御期待に対する責務と「ふるさと創生」の使命感をひしひしと痛感するものであります。

今、二十一世紀を目前にして私は、単に日本の真田町でなく国際的な真田町としての広い視野に立つての「町づくり」が肝要であると考えます。そのためには、真田町の歴史的、伝統的な風土、先人先輩の皆様が努力されてきた背景を十二分に心した政治が大切であると肝に命じております。

また、町民の皆様、真田町から日本の各地でそれぞれの分野で御活躍されております「ふるさと出身者」の皆様率直なお気持ちを大切に政治を基本理念とするところに原点をおくべきであると考えます。

幸いにも、本年は「東京真田町の会」の会長小林孝雄様にはふるさとの青少年の健全育成のための御講演をいただくなど、役員幹部の皆様が真田まつりや盆の帰省の際の親睦会等々の交流をいただいたところでありま

す。

私も、本年五月に町長に就任してからすでに半歳が経過し、真田町の躍進のため「自由時間都市構想」、「長寿化社会の福祉施策」、「全町下水道化」、「農業の基盤整備Ⅱ高生産性農業の確立」、「郷土の文化遺産の整備等公園化施策」、「信頼される教育基盤の確立」、「若者が誇れる町づくり」等々の政策プロジェクトを展開しております。

これらの政策の実現化、町づくりは、何人といいたしましても

日本ダボス第二号発刊にあたって

真田町議会議長 坂口 明

第二回目日本ダボス発刊おめでとうございます。九月二日の東京真田町会第二回通常総会が

会員の皆様大勢御参加いただき内容も一段と濃く盛大に開会できました事ほんとうに嬉しく心からお慶び申し上げます。

一年ぶりのおいきあい又、はじめての出会い、なつかしい思い出話に花がさき、時間がまたたくまに過ぎてしまい、お別れするのが誠に残念でした、其の後、皆様方には益々御壮健にて御活躍のことと拝察いたしお慶び申し上げます。

さて、本年の真田町の状況を少

「人づくりが基本であります。論語で孔子の教えに「仁」と「信」があります。「仁」は思いやり、「信」は信じあえる、こうした人間性豊かな町民性の確立こそ、立派な町づくりの原点であることを私の政治信条としております。

どうぞ、「東京真田町の会」の皆様の一層の「ふるさと」に対する御指導・御助言をお願いすると共に、皆様の御健勝と御活躍を心から御祈念申し上げます。

し報告致します。農作物は全般に豊作でした価格は種類によって大きな開きがありました、野菜類は七月下旬の電害で菅平は大変な被害を受けましたが価格は、一時期は高値でしたが全般に良くありませんでした。花き類、果物は春の霜害はありましたが、たいした事もなく、市場相場も良く順調でした水稲は平年並と云うところです。行政については、役場庁舎は、工事が順調に進み外形はほぼ出来上がりこれから内装に入ります。老朽激しく狭い所で

の仕事、住民サービスにもこと

欠き待望久しかっただけに感激
 一入であります。又、生産基盤
 の整備としてホ場整備が竹室地
 籍。戸沢横尾間が終わり、今横
 道、田中間又、真田、横沢間の
 工事が急ピッチで進んでおりま
 す又、生活環境整備として、菅
 平第二期下水工事が今、盛んに
 進められております。本原下原
 地区三〇〇戸一二〇〇人対象の
 農業集落排水事業として下水道
 工事が始まりました。此の様に
 真田町も生産、生活様式も新し
 い時代に向かって大きく転換し
 つつあります。ふるさと創生一
 億円の事業は町創りの基本であ
 る人材育成つまり人づくりと、
 歴史に輝く真田一族の御屋敷跡
 (本原)の整備事業を行う事に
 なり、豊かな自然と歴史に富ん
 だ町創りに一層の努力をする所
 存でございます。

経済の発展にとまなましまして、
 私たち真田町においても都市化
 現象著しいものがございます。
 まして、高齢化社会を迎え新た
 な社会的問題が数多く行政問題
 として、其の施策が強くもとめ
 られております。此の様な、き
 びしい状況の中ではありますが
 二十一世紀にむけて誇れる故郷
 創りに懸命の努力を致しており
 ます。終わりになりましたが、
 真田町会が一步一步堅実に、会
 員相互の和を求めながら大きく
 前進されます事又、会員各位の

交流事業回想

真田町役場企画調整課長 三井俊男

東京真田町の会の皆様には、
 それぞれの分野においてご壮健
 にてご活躍のことと拝察申し上げ
 ます。

真田町の会が昨年九月に誕生
 して以来、会ではいろいろな事
 業が活発に行なわれており、心
 から啓意を表したいと存じます。
 このたび第二回目の会報の発行
 にあたりこの一年間真田町も会
 御健勝と御活躍を心から御祈念
 申し上げ筆をおきます。



長谷寺と境内にあ
 る真田幸隆夫妻
 昌幸の墓

長さんをはじめ役員の皆様には
 大変お世話になってきましたの
 でその二、三の事業についてご
 報告させていただきます。

平成元年六月二十四日には、
 真田町青少年健全育成町民大会
 が開催されましたが、小林孝雄
 会長には講師として来町いただ
 き、「ふるさとに思う」サブタ
 イトル「日本の現状から将来を
 展望し、人はどう生きたら良い
 か」と題して大変素晴らしい貴
 重なご講演をいただき、出席し
 た二百名あまりの町民一同感銘
 を受けた次第であります。

また毎年八月の第一土曜日に
 行なわれております「真田祭」
 は、本年は第五回目となり当町
 の夏の大イベントとして成長し
 ておりますが、東京真田町の会
 でも、この祭の最後を飾る花火
 大会にご寄付をいただき大輪の
 花をそえていただきました。会
 員の皆様には心よりお礼を申し
 上げます。また当日は清水副会
 長をはじめ塚田幹事さんには家
 族ぐるみで参加をいただくなど
 大勢の皆様に参加をいただきま
 した。

十月十三日には、上小広域の
 ふるさと創生事業として、上田

小県の八市町村が協力して丸子
 町の信州国際音楽村で開催した
 シンポジュームのパネリストと
 して東京真田町の会の小林会長
 及び清水副会長のご両人には、
 真田町関係の代表として出席を
 お願いしました。

これはふるさとを離れた者県
 外在住者」と、ふるさとに住ん
 でいる者が上小地域の振興につ
 いて自由に語り合い、また外か
 ら見たふるさとについてのの意
 見をお聞きして、各町村のふる
 さと創生に資したいということ
 で実施いたしました。前日には
 は、各市町村の公園・博物館・
 パイオセンター等を二班に分れ
 て視察をいただき(真田町は古
 城緑地広場)二日目には「おら
 がふるさとの明日」と題してパ
 ネルディスカッションにご苦勞
 をいただきました。

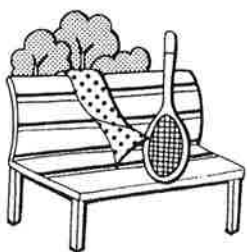
また四季折々のふるさとの味
 をお届けする「真田フレッシュ
 産直」事業の宅配につきまして
 は、今年の七月に真田町の財団
 法人として設立しました町の振
 興公社が、真田町農協とタイア
 ップして実施して行くことにな
 りまして、今年は、九月・十一
 月、二月の三回にわたって趣向
 をこらして発送することとし、
 真田町の会の皆さんを主体に会
 員募集をしましたところ七十二
 人の中し込みがあり、現在二回
 目の発送を終了いたしました

何人かの方に極めて好評のお声
 をいただいております。私達は
 ほんとうのふるさと真田町の味
 が都会の皆様と感じていただけ
 るよう、今後も努力して参りま
 す。

特に生鮮野菜、果実などは早朝
 に収穫したものをその日の内に
 発送いたしますし、またソフト
 面でもふるさとからの目や、心
 のプレゼントとして小鳥の声や
 せせらぎを町内集録でプレゼン
 トするほか、稲穂やカエデなど
 も宅配に入れて、ふるさと真田
 町へのUターンをしていただけ
 るよう配慮しております。

また、この事業に関連して、
 「史跡めぐり」や「りんご狩」
 「紅葉狩」などのふるさと訪問
 を是非行なっていたいただけたらと
 考えております。

以上今年町が特にご協力をい
 ただいた事業の一部を紹介させ
 ていただきましたが、来年は真
 田祭に帰省ツアーを計画されて
 いるとのお話もお聞きしました。
 是非大勢のご参加をお願いしお
 待ち申し上げております。



第二回総会に参加して、

消防団長 池田 恵一

東京真田町の会総会おめでと
うございました。月日の流れは
早いもので、早一年が経過しま
した。昨年この会場で待望の設
立総会、祝賀会が開催された場
所へ、真田町消防音楽隊をお招
きにあずかり感謝を申し上げる
と共に不安を胸にいだいての出
席でした。消防団の紹介を少し
させていただきます。町の人口
一万一千余名の中より団員六百
三十名で十分団と幹部、役場職
員で構成する十一分団になって
おります。時代の流れと申しま
すか、生活の向上と組織の充実
により団員数も合併時から見れ
ば、大変減少しております。地
元より町外企業への勤労者が八
割近く占めるようになりました。
団員不足がちの中、消防団の活
性化にとの事を含め昨年町政施
行三十周年事業の一つで六
十三年四月団員による消防音楽
隊が設立致しまして、第一回目
の演奏が十月一日の三十周年記
念で初披露をさせていただきました。
東京真田町の会の会長小
林様から大変心あたたまる激励
の言葉をいただき、山崎副団長
と共に感激を致しました。我々
の任務の責任を痛感致しました。

職場が違うため練習時間を生み
出すのが一番の苦勞です。お互
の協力心と団結は音楽隊ならで
はと言う意気込みでの練習経過
での演奏でした。演奏後の懇親
会の中での皆さんとの対話の中
で、個々大変感動を受け、音楽
好きの隊員の団結は更に、勇氣
と自信を持ちました。このよう
な総会に団員が多数参加させて
いただいた事は、音楽隊の設立
は消防の価値感が認められたと
思われます。今回のお招きを忘
れず感謝申し上げますと共に、



▲真田庵

皆様との交流を忘れる事がない
でしょう。最後に会員皆様の御
健勝と東京真田町の会が、益々
発展されます事を心からご祈念
申し上げます。

真田町婦人会のあゆみ

真田町婦人会長 塩沢 洋子

空には冬の星座オリオンが光
り、真田では野沢菜漬けや沢庵
漬けが始まり、冬の準備に大わ
らわの毎日を過しております。

第二回「東京真田町の会」の
総会が、池の端文化センターで
開催されました時には、大勢の
皆様方より心暖まるご招待を頂
きました事を心より厚く御礼を
申し上げます。この催しを契機
に、故郷真田町と東京の皆様方
との交流がますます盛んになっ
てゆくことでしょう。

私は、真田町婦人会の代表と
して出席させて頂きましたので
婦人会の事につきまして報告さ
せて頂きます。

真田町婦人会のあゆみ

真田町婦人会は昭和三十四年
四月発足し、以来三十年さまざ
まな時代の波を受けながら町の
婦人教育唯一の、そして最大の
機関として活発な活動を展開し
て参りました。最近全国的な婦
人会の会員減少が問題となり組
織の崩壊さえ各地で起きている



中で真田町婦人会が一、五〇〇
名の会員数を維持しているには
それなりの努力の経過がありま
した。真田町は人口一一、〇〇
〇の小さな町であり、その中で
婦人会を大切にする会員と、地
域を守ろうとする住民意識、更
に蔭になり日向になりして婦人
会を後押しする先輩たち、まじ
めに奉仕する役員、そして婦人
会を指導しながら活用する行政
それが無理なく公然としている
所に今日の真田町婦人会がある
と思われまます。いつも歴代の会
長を中心にまわり、役員を引き
受ける時はしぶしぶであつても
任期が終る頃になると、婦人会
はすばらしい勉強の場であり、
大勢のよき友を得たことをつく
づく思い知って婦人会という組
織を改めて見直し、バトンを渡
してからは先輩として後輩の後
押しをする。こんな形がくり返
されてきた三十年でありました。
然し就労婦人の増加など、生
活の変化の中で、今後どのよう

に進んでゆくべきか会員の皆様と模索しつつ、より豊かな真田町づくり、参加して行こうと

考えております。
東京の会の皆様様の御健康と御活躍を御祈念申し上げます。

創刊号「日本ダボス」を拝見して

前狛江市長野原人会会長 滝沢 肇

この度、真田町発足三十周年記念事業のひとつとして「東京真田町の会」が発足しましたことを、心からお祝い申しあげ、今後のご発展をお祈りいたします。

今年の三月のことでした。同じ狛江市在住の清水清晴副会長さんから、「日本ダボス」を読ませていただき大変勉強になりました。

その一つは、この会の設立にあたり町当局より多大な補助金が支出されたことです。このことは、町当局が、この会に寄せるご理解とご協力の絶大であることを物語るもので誠に羨ましい限りです。財政が好転したとはいえ、故郷を離れた人々への暖かいまなざしがなければ出来ないことです。

町の憲章にある「お互に助け合い暖かい心がかよう町をつくります」の具体的な表現です。このような町当局の勇氣ある決断に、私は深甚なる敬意を表します。

その二つめは、真田町が豊か

な自然に恵まれるとともに、すばらしい歴史の伝統を今も守り文化を大切になさって、町おこしに懸命に努力している姿に頭がさがります。

従って、ふるさとを出でて、東京近辺に働く会員の方々が、真田町出身を誇りとして、各界でご活躍なさっている姿が、掲載の記事に明確に出ております。このことは、自分のふるさとを大事にしない者は、ふるさともから大事にされない哲理を私は、しみじみと学ばせていただきました。

その三つめは、役員の方々と町当局が一体となって、会員の精神を刺激し、元気づける「心の政策」をお持ちのことです。

このことは、この創刊号に寄せる役員や町当局の方々の記事に、明確に表現されております。ふるさとを離れて幾年、いや幾十年、それぞれの努力によって今日を築かれた会員の方々を暖かく見守りながら、ふるさとの現状と未来を語り励まされております。

それにしても、今の世の中、複雑です。どうあつたらよいのか。あるべき姿のお手本のなかなか見つからない時代。自ら創めるしかない時代に、ふるさとを遠く離れた人々に、ふるさとを励まし語りかけてくれる事実を大切にしたいものです。

私たちが、幸福に暮すには、特に、健康と氣力と経済が必要かと思ひます。この中で、何事にも氣力が一番大切かと思ひます。私たちが、自ら、これぞという打ち込む対策があり、超えるべき目標があれば、氣力は自然に湧いて来るものです。

どうぞ、今後も会員が相寄り相計り、「大衆は大智なり」の信念のもと「日本ダボス」が、その役割を果たしてくれることを私は確信して、拝見のお礼にさせていただきます。

人の行く裏に道あり花の山



▲大空に舞うハングライダー

東京真田町の会総会に出席して

小林 正子（中横道出身）

故郷を離れてから二十余年、

昨年町当局はじめ役員さんや多くの方々のご尽力により、東京真田町の会が設立され、私も隣りの市に住んでいる姉と一緒にワクワクした気持ちで出席させて頂きました。最初は昔のように姉の後からついて回っている私でしたが、あそここの橋を渡って行った所の〇〇さんとか、坂を登ってけさしの長いあの家、〇〇ちゃんとか言っていて話しているうちに、ふるさとの風景や様子が脳裏に広がり居ながらにしてふるさとに帰った様な気持ちになりました。言葉も「おいはどこの人だい」とか「知ってるかい」とかさっぱりお国言葉になつてしまひ、おすましも、氣取りもなくなり、昔のままの自分に戻っていました。そして安心感となつたしさの中で暖かい和やかな一日を過ごさせて頂きました。そのことに味を占め支部会・総会と出席させて頂き、出席の良さから理事の大役まで頂いてしまひました。

今年の総会には、町の消防音楽隊の方々がすばらしい演奏を聴かせて下さいました。

隊員の若い青年との話の中で、

青年達がこれから真田町をどのようにしていったら良いかという展望を掲げ、それに向つて自分達は何をしていったら良いのかを見極め、一歩一歩歩んでいく姿に頼もしさ、ふるさとの愛する熱いものを感じ大変嬉しく思い「ガンバッテ」と声援を送りたい気持ちで一杯になりました。考えてみますと私の人間形成の基礎の大部分は、ふるさとの両親はもとより周りの多くの人々、自然環境の中で育てて頂いたものです。このことを思った時、改めて感謝が湧いてまいります。そうしますと私が今住んでいる所の子供達も、ここがふるさとになっていくのですから、私がふるさとをなつかしくありがたいと思うと同じようにこの町の子供達にも思い出して頂けるような環境を作っていくことも大切な事だと思わせて頂きます。これからこの会がいろいろな情報交換の場となりふるさとのパイプ役となつて相互の発展に役立つことが出来ますよう、私に出来ることがありましたら微力ですが協力させていただきます。

「ふるさとを思う」

中島 正江（戸沢出身）

真田町の会も一周年が過ぎました。やはりなつかしさと、皆さんに会いたさどが重なって皆さん出席されるのですね。若くて都会に出て来た人、結婚されてこられた人、様々です。

例えば八百屋さんで野菜を買うのも六文銭の印か、アルプス印か、どこの農協で出してきたのか、真田町の皆さんにはあまり関係ないでしょうが無性に真田町が恋しくなる時があります。

子供の小さい時には年2〜3回里帰りもしましたが今では、クラス会の折にちよつと立寄るくらいしか機会がありません。田舎の皆さんは盆暮にはお客様で大変でしょうが、子供を連れて

帰るのは子供自身も田舎のおじいちゃん、おばあちゃんの所へ行くんだと近所中あるいは学校中自慢して歩きます。田舎はどこ？「菅平の真田町だよ」とすると必らず「いいところね」と言葉が帰って来ます。

特に菅平は、冬はスキー、夏は色々のスポーツ合宿（特にラクビーは有名ですが）

私たちは今、地域の玉川スポーツ少年団でサッカー部の責任者でやっています。小学2年生〜6年生、中学生からジュニアリーグとして約百名、団全体では二百名の子供達があります。

この子供達を是非このすばらしい菅平に一度合宿をして田舎

の良さを知ってもらおうと各方面に折衝中です。

私が東京へ出て来た時は、上田丸子電鉄の石舟駅より、母に見送られ故郷の野山をあとに母の姿がだんだん小さくなりいつまでも手を振っていてくれた姿が今でも忘れられません。私には東京に姉がおりましたので、そんなに心配はしていなかったでしょうがやはり心の中で泣いていたでしょう。今は父母も亡くなりましたが……。その電鉄もなく立派な道路が出来てずい分変わって来ましたね。なぜか淋しい気もします。

真田町に自動車で帰る時にはあまり気になりませんが、信越線で帰ると小諸を過ぎる頃にはさあ次は上田だ！上田！！上田！！上田でございませう。お忘れものがないようにおしとく願います。車掌の案内、うれしさでほつとします。改札には兄が多く言葉をかわさなくても笑顔の中で心の中がわかってしまうような気がします。

時が過ぎると共に、甥が子供を乗せて迎えに来てくれるようになりました。ありがたいことです。兄嫁さんの言葉「おいだれ、どうしただい。めためた食べなや、遠慮なんかすんない」兄貴の言葉「おら女しょうが作ったもんだから、まあやんなや」と一杯飲む酒はうまい。子

供達には「やだない。まずこんなに大きくなってさ、身長が追い越されてしまふに」と。この言葉は成長するたびに子供達は忘れてはいません。今でもおばちゃんがこう言ったねって話をしています。

たもってトンボを追いかけたいた子供達も今では高二（長女（163cm）中二長男（173cm））になりました。だんだん真田町も変わって来て

総会に出席して

岩崎 みち子（菅平出身）

を偲びながら尽きない時間を過ごさせていただきました。これも真田町の皆様の暖かい心に支えられてのものと、本当に感謝しております。できればもっとより多くの皆様が参加され、益々この会が大きく発展されますよう心より念願しています。



▲馬ひき



「真田町の思い出」

若林 豊（赤井出身）

私は、昭和三十三年一月本原村役場にて成人式を終え間もなく、上田丸子電鉄真田傍陽線の本原駅から母親に見送られながら、一路東京へとむかいました。今年、「日本ダボス」二号発刊との事、私の真田町の思い出を綴ってみたいと思います。

私は、昭和十八年四月に東京都北区にある東寺の国民学校に入學し、その年の八月か九月頃父親の故郷である角間に疎開し、長村国民学校に姉と共に入りました。これが、私と真田町の出会いです。そして、その翌年、事情が有りまして赤井に移転して本原国民学校に通う様になりました。

きましたが、天神様に近寄れなかったのか、天神様にて見放されたのか、たいした学問もできずに、学校生活を終わりました。その後の突然変異もなく現在にいたっております。今の塾通いの子供達から見れば大変のどかな光景ではないでしょうか。

中学時代は、よく朝早起きをして、じゃがいも畑の害虫駆除のための点とう虫取り又、テニスのラケットの糸になるという、くるみの木にいる毛虫取り等、都会では味わえない事をやりました。この後、家業の農業を手伝いながら烏帽子岳の木材出し山の下草刈り等色々な事をしました。その烏帽子岳の登山が今でも忘れられません。急な坂道を登って汗まみれになって頂上についた時は何とも言えませんでした。遠くは富士山から北アルプスから近くは浅間山・四阿山等一望できて感激したものです。又、遠くから見るあの烏帽



▲冬景色の唐沢の滝

子岳の雄姿は、我故郷の山と誇れるのではないだろうか。

先日、真田町に行き荒井の国道一四四号バイパス脇にある御食事処「仙岳」に立ち寄り真つ正面に見える烏帽子岳をながめながら昔をしのいでおりました。そのバイパスはかつて、上田丸子電鉄の線路でした。私達を一生懸命運んでくれたあの電車は昭和四十七年二月十九日限りで廃止になりました。けれども、これも忘れられない思い出です。働くために母に見送られて東京へ旅立った真田線と傍陽線が分岐するあの本原駅、今でも忘れることができます。その母は今もこの世におられます。母共々思い出の駅であります。菅平でのスキー、お屋敷の三ツ頭、つつじみ会等思い出は、まだまだつきません。春の若菜・夏の青菜・秋の紅葉・冬の銀世界と四季折々の風景にめぐまれ

ている真田町、周囲の人々に故郷はどちらですかと問われた時胸をはって答えます「六文銭の真田町よ」と、歴史と観光の町真田町のこれからはますますの発展を祈願してペンを置きます。

総会に出席しての思い出

石垣 節子（曲尾出身）

九月二日昨年同様上野池の端文化センターに於ける総会に出席して、ほんとうに故郷とはよいものだと思えました。

どつてみると、何かつながりがあるの、ほんとうに嬉しく思います。

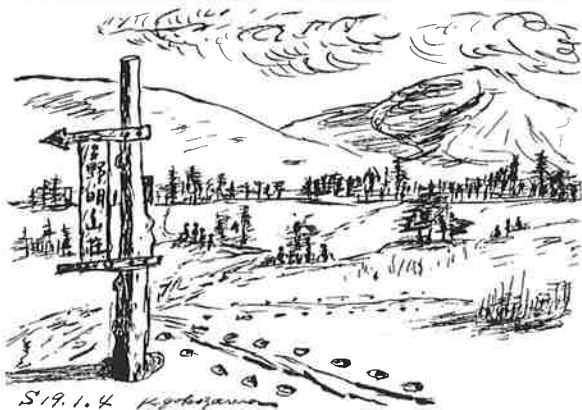
私は昭和二十年に東京から真田町曲尾に疎開して、僅か二年半程の生活でしたが、そこで多勢の方々とお知り合いになり、四十年以上も経った今日、またまたお友達になっていただき、私のような家庭の主婦にとつてこうした人の和が出来たことを大変うれしく思っております。各部会に出席した折も、自己紹介で、葛飾区にお住いの若い女性の方とお話しする機会がありました。するとどうでしょう。その方の御主人と私は、亀有にある亀有小学校の卒業生だったので。それに、その方のおじいさんは、私が一年半役場に在職中御一諸にお仕事をした事のある方でしたので、ますます親近感を覚え、懐しく思いました。そのように皆様と色々昔話をた

総会当日は、真田町町長さんはじめ多数の方々にお出いただき、大変有意義なお話をたまり、力強く感じました。又真田町消防音楽隊の皆様演奏も大変素晴らしく、お忙しいお仕事の合間に熱心に練習されたとの事そしてなん曲も演奏して下さいまして、ほんとうに胸をうたれました。帰りには信州特産のお土産までいただき、楽しい一日を過ごすことが出来ました。これからも一人でも多くこの会に出席していただき、より一層大きな輪が出来ればよいと念じております。最後に、真田町及び東京真田町の会の益々の御発展をお祈りいたします。



菅平日本ダボスの思い出

横沢清人(大畑出身)



冬期大会がシャモニーで行なわれた。その大会でシュナイダーはアルペン(滑降)三種目を制覇し世界のスキー界で一躍有名になった。そのご世界的スキーヤーとなったトニーザイラー、クロードキリー、ステンマルク等は未だ記憶に新しい名スキーヤーである。

日本にスキーが入って来たのは明治末期札幌農学校にスイス人ハンス、コラーがスキーを持込み更に高田市の歩兵第五八連隊の将校がオーストリアのフォンネヒル少佐にスキーの指導を受けて日本のスキーの基礎を築いた。一九五六年冬期オリンピック第七回大会で日本の猪谷千春は銀メダルをとり一躍有名になり日本は世界的にもスキー国として認められる存在となった。

スキーの語彙は原始的なスキー発祥の地スカンジナビア語であり六世紀がその起源である。氷い年月と幾多の変遷を経て発祥しながら十八世紀末に初めてノルウェーでスキー競技が行なわれた。そのごオーストリアの山地に適した滑降シユラム技術はハネス、シュナイダーに継がれ一九二四年(大正十三年)近代スキーの第一回オリンピック

てみたいと思うようになった。昭和三年に上田から菅平まで電車が開通し菅平スキー場発展の契機となった。更に昭和の初め高橋長野県知事が菅平スキー場を訪れた折菅平高原がスイスのダボスと似ているということによって菅平のスキー場最適地と賞讃したのを受け矢追博士が菅平高原を「日本ダボス」と名付けたとのことである。そのご間もなく昭和五年に前記したハネスシュナイダーが来日し、菅平高原で初滑りしドイツのシユワルトツワルトと絶賛し、そのごの菅平スキー場発展に貢献した。その頃になると上田温電の主要駅にスキー客誘致のため菅平スキー場のカラフルな広告ポスターが張り出され次の如き「菅平小唄」が作られレコードで流し盛んに宣伝していた。その頃私達子供もよく歌ったものである。

菅平小唄

粹なセーターで 銀盤踏んで
行こうよ信濃の

シユワルトツワルト

日本ダボスの菅平

タラツタジクザツク

スキーで滑る

滑ろスローブ菅平

私が初めて菅平スキー場を訪れたのは昭和十年頃と記憶している。もう半世紀も昔のことである。私のスキーに対する渴望は止み難くスキー用具一式買っ

てもらい、早速正月休みに心はづませながら親友の山崎林二君と本原から真田まで電車で行き省営バスに乗り継ぎ菅平口よりスキーを担いで細い雪の山道を歩いて菅平へ行ったものである。菅平口よりスキー場まで当時十人乗りぐらゐの馬車があつたが来る人は東京方面からのお客が主であつた。

菅平に着くと急に視界が開け一面広大な銀世界となり四阿山猫岳の雄姿が紺碧の空にくっきりと聳えその手前になだらかな日本ダボスの尾根が続いていた。

夢にまで見たこんな素晴らしいところで滑れると思うと感激に心が躍動したことが今でも鮮明に甦つて来る。そしてこの瞬間からスキーにとりつかれ東京に来てからも菅平を初め志賀高原蔵王、奥日光、草津、信越沿線の各スキー場を滑り歩くことになるのである。菅平スキー場で最初に泊つたのは冬期だけやっている民宿であつた。いろいろを囲み家族的な雰囲気の中で山菜料理の夕食をしながら同宿の人達と夜の更けるまで談笑し炬燵のまわりで雑魚寝したものである。その他私の宿泊した当時の旅館で記憶にあるのは菅清荘、白樺荘、菅平ホテルと早稲田大学のラグビー練習所の前にあつた望岳荘である。この望岳荘の二階からの景観は四阿山、猫岳、

日本ダボスの銀嶺の魅惑に恍惚として暫し世俗を離れ大自然の美しさに陶酔し益々雪山の魅力にとりつかれてしまった。

当時は民宿を除けば旅館は十軒あつたかどうか? ゲレンデにはまだ一基のリフトもない時代でスキーは主に宮前、太郎ゲレンデで滑り、少し遠かったが雪原を歩き広大な日本ダボスで滑った。ゲレンデに食堂も喫茶店等なく握り飯を持って行った。高原の左方に野明山荘の看板が立っていた。同行の中学生だった坂口平君が上田中学の先生の山荘だと説明してくれた。昭和十八年冬に一度だけ猫岳にスキーツアーをしたことがある。バックスリップを防ぐためスキーの裏にアザラシの毛皮で作ったシールを取付け牧場の柵にそって頂上への最短距離を三人が交替で深い新雪をラッセルしながら登った。数時間の苦闘の末二二〇七米の猫岳の頂上に立った。時の感激は今でも忘れられない。この日は快晴で三六〇度の銀世界の大パノラマが開け浅間山、烏帽子岳は指呼の間に遠くは日本アルプスの三〇〇〇米級の美しい銀嶺が連なり眺望絶佳冬山の美しさに魅せられた。然し氷点下一〇度以下の山頂に永居は禁物である。山頂の祠にシーハイルを告げ日本ダボスの尾根を目指し、六軒のダウンヒルを心行

くまで三十分位の滑降を楽しんだ。現在は猫岳山頂までジェットヘリで四分で行くという。私は近い中に何十年振かでも一度、今度はヘリコプターで猫岳の山頂をきわめたいと思っている。私が菅平に初めて行った昭和十年頃はスキートの廻転技術も片膝を前方に折曲げて廻るテレマークと称する格好の悪い幼稚

真田と私

森 本 幹 生 (入軽井沢出身)

今では考えられぬ事ですが、何かの用事の帰り道、母と二人上田から入軽井沢まで歩いて帰った事がありました。何度も若い頃から歩いている母は、山側の近道を知っており慣れていたのですが、小学校二、三年の私は初めての道、どこともなく暗い山道が恐く母に遅れまいと必死に歩いた記憶があります。それでも母と一緒に歩き切れたの途中中休んだ折に遥か下の方に見えた、細く白く伸びた本道を見付けた時は、とても感動しました。マツチ棒の様な道路が、ちょうど雲の間から見えているように驚いたのです。他にも忘れられぬ事が沢山あるのですが、あの頃の私にとって生活そのものが新鮮で充実したものでした。別に沢山お菓子があった訳でも

なものであった。それから半世紀シテムボーゲン、クリスチヤニア、ウエデルン、パラレルと廻転技術も年毎に高度化し、スキー用具も著しい発達を遂げその他グレンデ、リフト、宿泊施設も完備され、隔世の感がある。尚真田町に於ては菅平国際リゾートセンターの開発。ヒューマンウェアの自由時間都市構

なく、豊かでもなかったのですが、季節と共に変化する自然、そこに関わって働く大人達の汗、否応なく手伝わされる仕事や動物の世話、そんな中での色々な遊び……自然な形で、あれ程まで生活を実感できた事は他にないように思います。自然とのつながりのある生活が、如何に大切に精神的に豊かなものをプレゼントして呉れていたか痛感して居ます。多分私は、そうした実感のある充足した時間を都会において少しでも自分なりに見付け出そうとして絵描きになったのだと思います。できるならば、もう一度あの様な自然生活の中で、絵描きとして自分の創作活動を試みたいものだと考えて居ます。

豊かさの革命

塚 田 恒 雄 (横尾出身)

想。更に菅平にスイス登山鉄道導入等のプロジェクトを推進して行くことを会報の創刊号で知り、一九九八年の冬期オリンピックの信州開催に向け意義深き

今年夏は珍しく10日間程休暇をとった。ギックリ腰で歩けなかった一年間の反動と子供が小四、小一と動き易くなったこともあり、家族で海と山を存分に楽しんだ。過去に2、3日間の夏休みをとったことはあったが、一週間以上は初めて。海は千葉の内房勝山と外房九十九里片貝。山は白樺湖から霧ヶ峰と菅平。菅平ではギックリ腰のリハビリ結果の確認をかねて根子岳登山に挑戦した。霧ヶ峰と根子岳から見たアルプス連峰の素晴らしさ。朝夕の空気のさわやかさ。久し振りに信州の大自然に接し、日頃のマンネリ的な不健康な生活から脱することができた。休暇の最後は横尾の実家に寄り、両親と兄貴夫妻を表敬。真田祭りも楽しませて頂いた。ところで、こうして休暇を積極的に楽しもう、真黒に日焼けしてみようなどと自ら考えることは昨年まではなかったような気がする。真田中学校を卒業し

素晴らしい計画だと思います。日本ダボスの思い出の稿を閉じるに当り故郷真田町の一層の発展を心より祈念する次第であります。

たのが昭和32年。その後スポーツに打ち込んだ学生時代は別として、社会人となった昭和40年以降は、ビジネスゲームに明け暮れてきた。24時間、365日フル稼働のキャッシュデイスベンサー並の生活態度を続けてきた。勤務先の環境が上司、同僚共に同様のビヘイビアであったから、別に疑問も感じなかったし友人もビジネスマシンに徹している例が多かった。それが、「仕事以外の時間を積極的に作っていききたい」「仕事以外の発想や行動も楽しみたい」という大変な心境の変化。自分自身でも驚いているこの変化はどうしたことか。思うにこれは、21世紀を展望した会社の長期経営ビジョンを作るために最近、内外の経済、社会環境に関する出版物や統計資料をはじめ、日本人の生活行動、価値観の変化等に関する予測ものを読みあさったことの影響である。新人類は何を考えているか解

らない。新人類とは31才以下を言い、いわゆる「もったいない」のいう感覚を持ちあわせていない。若者は一体どうなっているのだろう。といった会話や記述によく接する。しかし、改めて考えてみると、ここ数年の間に日本人の意識構造や行動は、いわゆる新人類層のみならず、お年寄りも熟年も、私の属する中年も、すべての層で大きく変化している。新人類をダシに日本人全体が自分自身の生活を楽しみだしてきていると言える。それも、従来は他から与えられたパターンに乗るスタイルであったが、最近では個性的なパターンを、自ら創造する方向が強くなっている。「勤勉」をもっぱらとしていた日本人が、あらゆる年代層にわたって「積極的に個性的に生活をエンジョイする」時代が一気に到来している。いわば日本人にとって「豊かさ革命」とも言える急激な変化が起っている。こんな印象を持ったことが今年の夏の行動の背景であり、これからも遅ればせながら、家族共々、積極的に個性的な生活を楽しんでいきたいと考えている。それだけに、ふるさととの触れあいの場である東京真田町の会場で、豊かさの革命を演出できることを念じている。

東京真田町の会総会に出席して

大橋 けさ子 (菅平出身)

九月二日、楽しみにしていた二回目の総会及び懇親会が開催されました。

会場に入った瞬間、私は『会場を間違えたのでは……』と、我が目を疑いました。

真田町消防音楽隊の整然とした姿が目についたのでした。

真田町の会同様、昨年設立されたとの事でした。音楽隊の演奏で、全員で「信濃の国」斉唱で会は始められました。(真田町音頭も全員で歌えたら良いですね)

再会を楽しみにしていましたが欠席された方もあり、残念でしたが、初めて出席された方もあり、賑やかな会となりました。今回は、会の時間を三時間とついでいただいておりますが、楽しい語らいの時はあつと言うまに過ぎてしまいました。

会員の方でもし、『同年代の人がいないから……』と、出席を躊躇なさっていらつしやる様でしたら、心配は無用ですよ。郷土を愛する心は一緒、同じ心をもつ仲間集いでものね。童心に返って、おおいに語りあいましょう。

年を重ねる如に、故郷を懐か



▲馬頭観音

しむ心は強くなる半面、疎遠になつていく様ですが、私達真田町出身者にはそのような事はありませんね。「東京真田町の会」こんな素晴らしい会が設立されたくださつた役場の皆様、又、関係者の方々に感謝申し上げます。そういえば、三十数年前、馴れぬ都会に来て淋しいとき、悲しいとき、思わず口ずさんでいたのが「兎追ひし彼の山……」この歌だったのです。口ずさむ事によって心が安らいだものでした。思い出の歌「ふるさと」を、真田町消防音楽隊の演奏で合唱できるなんて夢にも思いませんでしたので、感懐無量でした。音楽隊の皆様、素晴らしい演奏をありがとうございます。末筆ながら、「真田町の会」の益々の発展と、皆々様の御健康をお祈り申し上げます。

故郷の思い出

田中 恒夫 (横尾出身)

月日の過ぎるのは早いもので故郷を出て早や二十五年戦後経済の発展は実に目覚ましく、東京オリンピック後の都市の発展日々の変わりようは驚きでした。この経済成長の大波にもまれながら我をかえり見る暇もなく年が重ねて、どうやら無事生き延びて来ましたが、苦しみの中にも田舎の思い出があり、楽しみの時にも田舎の話題があり、いつも心の寄り所にして来ました故郷真田町です。

冬の田舎はたゞ寒さがあり、朝晩の人の挨拶が「しみますな」と云つて寒いとは違うそれ以上の寒さの表現でした。

朝など井戸の鉄部分に触れると手の皮がくっついて離れないほどで吐く息で眉毛や頭の毛等真白になり、白毛のおじいさんに早変わり……。当時はどこの家でも冬になればコタツで寝るのですが、吹雪の夜などは朝起きて見ると掛布団の上に雪が舞い込んで白くなる程でした。

寒くなる前には家の北側には稲藁を使って垣根に並べ立て風よけを作るのですが、風が強く雪がさらさらのため天井のどこかすき間より舞い込むのでそんな

「はちみつ」の味……

長屋 京子 (菅平出身)

子供の頃の思い出です。春の訪れは梅に桜に花をさそい波のように押寄せ山々を若葉色にぬり変えて行きます。のどかな山の斜面でワラビ取り、田圃の小川でドジョウ取り、短い夏はせみの鳴声で始まり虫の声で終りを告げ、稲穂もいつしか黄金色に実り秋の収穫の合間を見てもは近くの山々にキノコ取りにゆき、木々の葉もだんだんと落

ちて、梢が明るく冬の紺碧の空に早変わりする。こんな四季折々に変わる風景に色どりをそえるこんな美しい自然に育まれ、そこに住む人々の身も心も清純に染める心豊かな人情あふれる故郷真田町の人々が生れるのだと思います。

この故郷の思い出を多くもてるのは最高の人生と思つて居ます。今後夢作りに、思い出作りに心掛け充実した人生にしたいと思つたので故郷の皆様今後共よろしく御指導御交誼の程お願い申し上げます。

九月二日、第二回目の真田町の会が、めぐつて来ました。なつかしい人々と逢うということは一瞬にしてタイムトラベルが起きます。昨年の一回目はもちろん、春にも支部会があり、はじめてではないのに、逢うと走馬灯のように思い出がよみがえります。

四十年前の思い出となると、すべてが甘く、淡く、悲しく、恥かしく、そして楽しかったことは、その間をくぐり抜けてかすかに……。と交々が昨日のように……。でも味は「はちみつ」の

ような味！素朴な心暖まる味わい……。菅平の人達に限らず、真田町の皆さんとは、はじめて逢う人達が多いのに、テレビパシーがわかり合えるということが、ふるさとなのでしょいか。安堵感を覚えます。又、消防音楽隊には魅せられました。音楽に対する感性というものは、いつも身につけている昨今ですが、タイムトラベルが再び起す思い出は、小学校時代のデンキはもちろん、ラジオが家々にないころ忽然と現われた時は、不思議な魔法で



した。ラジオという四角な箱の中から聞こえて来る人間の声はもしかしたら小人が、否サーカスでみた首だけ人間が、この箱の中に入って、恥ずかしいから声だけ出しているんだろうか、と真剣に思い、そして恐る恐る箱の裏をのぞいたものでした。そんな知識や想像力のつたない時代、まして電波から流れるラジオの音にしてもピーピーガーガーが当り前、蓄音器から流れる音楽も、気をゆるすとタランタラン、ターン、ターン…ブツツン それ急いでネジを巻かなきゃ…という時代でしたから、シンフォニーだ、オーケストラだというリズム感、高校生になるまでは、まったく外の世界だったように思います。

こんな思い出が瞬時に頭をよぎりつつ、真田町の音楽隊のすばらしい音！リズム！に耳を傾けつつ時の流れを感じたことでした。そして二十一世紀に向けての町長のお話が、力強く、たのしく、胸にひびき確実にそしてすばらしく時は前進しているという実感と共に、ふるさとの姿を受けとめた一日でした。

私は終戦後信州に引揚げて東京に出て四十年以上になるので東京が第二の故郷と言えるかも知れぬが、人それぞれに生まれて育った故郷や、その人なりの心の故郷を持っている人も沢山

ふるさと心

荒木孝一（真田出身）



▲菅平の高原野菜

いるだろうと思う。

然し、何と言っても先祖代々受け継がれて来た心の故郷は何物にも替えがたいし、誰しもこの真の心の故郷とつながりがなくなってしまう事は淋しいことだと思う。やはり、いつまでも我々の子供、又、孫の時代になっても、しっかりと受け止めてくれる故郷は厳然と存在しておいて貰いたいものである。

何故ならば、それは人間が生きて行く時のよりどころとなり得るのが故郷だからである。誰もが静かに振返ってみれば故郷のすばらしさに気がつくはずであ

る。それは何と言っても、何よりも人情が厚いことだと思う。私は真田に限らず、長野、松本等の営業所にも時々行くことにしているが、その土地の人情の厚さが良くわかる。思いやりや優しさや、親切さは、いわば地方の特産であると思う。田舎地方の人たちは是非いつまでも思いやりや優しさを失ってほしくないが…。

な人では、どこに行っても歓迎されなくなるのではないかと心配になるし、私自身、そうならない様に常々厳しく自分を戒めている。

私はこの真田町の会を通して又々、多勢の人達との新しい出逢いと素晴らしい知己、知遇を得る事ができた。

こんな嬉しい事はないし、今後共この人間関係を精一杯大切に、これからも大きな輪に広がって行く様に希って止まない次第です。

第5回真田まつりに参加して

清水清晴（中横道出身）

八月三日の理事会の席上、小林会長が、第五回真田まつりが開催されますからどなたか行かれませんか？と…

その時、三井理事が、七月末真田町役場より、パンフレットを貰ってきています、と出席者全員に配布されました。

その夜、私は家に帰り、どんなも返事がなかったことを思い出し、東京真田町の会が、昨年の九月設立の際は真田町の若林助役（現町長）を始め担当の三井企画調整課長他、各係員さんに大変お世話になったうえ、設立補助金や運営費などたくさん



▲真田まつりにて

戴いているし、また四月二十七日の第四回理事会には課長他二名のご出席いただきその席上で平成元年度の補助金をご持参下さった事や、各支部会（東京東支部・東京西支部・神奈川支部）には必ず若林町長や三井助役、係員がご出席下さったことを思い出されたので、翌四日、三井理事に、以上の事について相談したところ、快くご返事をいただきましたので、これが、九牛の一毛の返礼となればと思ひ急遽お邪魔することになりました。

八月五日の午後〇時十二分に上田駅に着き、甥の車が出迎えていたので、直接真田まつりの会場本部へまいりました。町長さんは杉並区長がお見えになり、会議中とのことで、宮島収入役さんにご挨拶してから、会場（真田町運動公園）を一巡した。

音頭が大きな輪になって踊っている。その時、若林町長・三井助役・副議長・三井課長さんたちにはあいさつをした。東京真田町の会の席は、仕掛け花火のする場所の一番近い処に設けてくださった、最高の場所。

花火大会の始まる前に、町長さんや、役員の方々が、各テントを回られ、「東京真田町の会」の席まで挨拶にこられ恐縮しました。会では、私一人かと思っていたところ、塚田理事が、奥さんとお子さんをお連れして席へこられて、嬉しかった。

民謡流しが終わり、少しあたりが薄暗くなってきた頃、大きなみこしが会場を一回りしてから、花火大会になる。

〇〇君の誕生祝い、会社設立祝い××会社等と、会場にアナウンスされてから花火は打に上げる。銀星たちの舞踏会……星たちのカクテルパーティー……菊花競い咲く高原の妖精フェスティバル等、みんなの夢が夏の夜空に舞うとき、見物人の歓声が会場一面にわきおこる。後方を見ると大勢の見物人。スターマイン郷土の誉星群……「東京真田町の会」など盛りだくさんの花火でした。

最後は真田まつり五周年記念大仕掛け「未来へはばたく真田の精神」真田のイメージシンボル（真田城をイメージした大仕

第六回真田町青少年育成町民大会に出席して

会長 小林 孝 雄

去る六月二十四日、真田町中央公民館大ホールに於て、第六回青少年健全育成町民大会が開催されました。松尾教育長よりこの機会に「ふるさとに思う」

掛花火です。左側に真田城が大きく出現し、その右側に四〇五〇〇発の流星花火がピュー、ピュー、ピューと音を出して乱舞する、みごとさは筆舌では現すことが出来ない荘厳さであった。

ある本に、真田まつりは、昭和六十年の「真田太平記」の放映を契機に町をあげての夏まつり、毎年八月の第一土曜日に開催される。みこし、民謡流し、花火大会をメインに毎年、趣向をこらしたイベントを取り入れて、町内外の人が一万人以上見物に集まると……まさにその通りでした。

「東京真田町の会」の席で花火が終わるまで、面倒をみてくださった三井課長さん、小市係長さん本当にありがとうございました。町長さんをはじめ真田町役場の皆さん、そして町の皆さんありがとうございました。厚く御礼申し上げます。

と題して講演をするようご依頼があり、浅学非才を顧みず私の今日までの人生体験を通じて得た事柄について、町民の皆さんにお話しをさせて頂きました。

この青少年健全育成の運動は昭和四十年に政府の提唱により始められ、次第に全国的な運動へと広がり、真田町においても昭和五十九年に「青少年健全育成町民会議」が結成され、今回第六回目の町民大会を迎えたものであります。申すまでもなく青少年は次代の担い手であり、

家庭の活力の源でもあります。従って、青少年が健全に成長することは、大人たちの責任であり、また教育の重要な使命であります。このような視点から見、真田町が町ぐるみで運動を進めている「青少年健全育成町民大会」は、きわめて大切な意義を持つものと考えます。

今回の町民大会では、先ずいま全区に「育成会」を設ける努力を各區ごとに続けているとのことで、「育成会」を作り出すまでの苦しみ」と題して、大庭の小山昌寿氏から実践報告が行なわれました。いかなる運動も同じですが、先頭に立って、町民一

人一人の理解と協力を求め、これを組織的運動として推進していくためには、その核となる人たちの熱意と強力なリーダーシップが必要です。小山氏の報告は、その現場からの努力を述べたもので、深い共感を覚えま

続いて、真田町青少年指導員岡村公雄先生の「真田町の現状と今年の方針」と題する基調報告が行なわれました。これは小・中学校生徒の家庭生活についてのアンケートをまとめた詳細な資料にもとづく報告で、真田町の生徒たちの実像が鮮明に画かれ、誠に興味深いお話でありました。この運動を今後継続して推進していくのは、このような指導員の皆さんが原動力であり、意を強くした次第です。

最後に、私は「東京真田町の会」の現状をご報告し、わが国の国際化の立ち遅れが、日本の子供たちにどんな苦難を強いているか、また、原爆「語り部」の姉妹が、いかにして絶望の淵から立ち上ったか等のお話をしました。町民の皆さんが、深い感動をもって聞いて下さったことを後日のご報告により知り、その責を果すことができたと感じました。会員皆様におかれましても、どうか、この運動に対してご協力下さらんことをお願いいたします。

情報化社会へ

深町 共栄（田中出身）

九月二日にはじめて東京真田町会に参加させていただき、多くの懐かしい方々にお逢いできて実に充実した時を過ごすことができましたことを、この会を企画開催された世話人の皆様方および多大な御援助いただいた真田町の皆様方にこの場をかりて感謝申し上げます。

私は、真田町田中の出身ですが上田千曲高校の電気科2期生として昭和37年に卒業後、東京の短大に進学しました。その後国家公務員試験に合格して東京大学物性研究所に技官として勤務し、十二年間充実した研究生活を送ることができました。

この間にX線を用いた固体物理学の研究で多くの論文発表を行い、昭和51年東京大学において理学博士の学位を受けました。そしてその年、新設されたばかりの埼玉大学工学部電子工学科の教員として着任し現在に至っています。

現在の研究の主たるテーマは東大時代のものを継承しているほか、電子工学関係の研究としては、集積回路設計、コンピュータ設計、電子回路を用いた各種計測制御装置の設計というコ

ンピュータのハードウェアに関する研究のほかに、コンピュータ・グラフィックスやコンピュータ通信関連のプログラムに関する研究も行っています。

今、世の中は情報化社会と呼ばれ、もはやコンピュータの支援なくして生活することは考えられない時代になってきました。例えば、電気釜、洗濯機、エアコン、自動車などといった所に超小型のコンピュータが働いています。それと共に、今日情報関連の技術は急速な勢いで発展を続けています。都市においてはこれら技術を吸収し、そ

東京真田町の会

第二回総会開催

203名が出席

東京真田町の会（会長・小林孝雄）では、九月二日（土）正午から、上野池之端文化センター黄金の間に於いて、第二回総会並びに懇親会を開催した。

当日ふるさと真田町から、若林康朗町長、坂口明町議会議長、松尾一久教育長、青少年健全育成町民会議、鈴木会長、塩沢副

してその関連産業を育成して成長を続けています。

振り返って我が古里真田町はいかがでしょうか。このコンピュータ関連の産業が育ちはじめているのでしょうか。長野県にはエプソンというコンピュータ関連では超一流とも呼べる企業があります。幸いにしてコンピュータ関連の産業には、大規模な敷地とか設備を必要としない反面、高度に訓練を受けた技術者が要求されます。これからは農業と共に情報関連の産業を育成することは真田町にとつては必要なことかもしれません。

最後になりましたが真田町の健全な発展と、東京真田町の会の皆様方の益々の御活躍と御発展をお祈り申し上げます。

会長（女性）、三井企画調整課長小市係長、山宮係員、真田町消防団、池田団長、山崎副団長と昨年町制三十周年記念事業として結成された、真田町消防音楽隊（女性二名を含む）二十四名、総勢四十一名と来賓者、郷土出身の衆議院議員羽田孜・井出正一、参議院議員小山一平各先生



▲盛大だった第二回総会

の秘書の方々と会員一六二名が出席して盛大に開催された。

総会は長屋京子理事の司会で「定刻になりました。ただ今から東京真田町の会第二回総会を開催いたします」と透き通った美声でアナウンスされる。(この時真田町消防音楽隊のファンファーレが会場一杯に響きわたる)私は本総会の司会を担当する長屋でございます。菅平出身で旧姓宮沢です。総会は約三十分を予定しており、ご協力をお願いします」と。

山口理事の開会のことばが終わり、音楽隊の演奏で、県歌「信濃の国」を二番まで斉唱、つづいて小林会長の挨拶。「昨年九月真田町の皆さんに大変お世話になり、この場所東京真田町の会が設立されて早くも一年になりました。……遠路真田町よりご参加下さいました町長さん始め皆様方に厚く御礼申し上げます」と昨年度の実行された諸事業をのべられた。後、司会者が「議事に移ります。総会は会則により会長が議長となることを告げ、議長登壇し、昭和六十三年度の会務報告を荒木副会長同会計報告を三井会計理事、監査報告を塩沢会計幹事、平成元年度事業計画(案)を清水副会長、同予算(案)を塚田会計理事が報告し、議長が採決をとり賛成多数で可決された。

つづいて司会者より来賓の方々の紹介があり、祝辞を若林町長にお願いしました。

その主な内容は「本日は総会おめでとうございます。私は真田町第三代目の町長が今年の五月就任しました。真田町発展のために全力を傾注します。昨年真田町三十周年記念事業として真田町消防音楽隊を結成しました。二十一世紀に向けて人間性のある社会、自然を守りその特性を活かす、住民生活の向上を図るため物質的な豊かさの追求だけでなく、自由時間都市基本構想、精神のゆとりを確保して行くことが大切、又自然を活か



▲すばらしい演奏を聞かせてくれた消防音楽隊

した信綱寺広場ができ上がり、峰山公園、洗馬公園も今年の十月一日にはオープンする。新庁舎も来年三月には完成する予定です。皆さんも実家などへ来ましたら是非お立ち寄り下さい。」と、いろいろのマスタープランを進めて行くお考えをお話になりました。

坂口議長は「前町長の勇退、現町長の就任、真田町農協の一本化、高齢化福祉の充実について、又皆さんに誇れる真田町にする、皆さんも元気で頑張つてあたたかみのある、東京真田町の会にして下さい」と結ばれました。

その後祝電の紹介を次の順序で読み上げられました。

長野県人会連合会長

小坂 徳三郎様

長野県東京事務所長

西村 直吉様

衆議院議員

中村 茂先生

衆議院議員

かすや 茂先生

閉会のことばを横沢副会長が述べて総会は無事に終了した。

★

いったん約十分間の休憩をして、同会場が懇親会会場となる。懇親会は、塚田恒雄、石垣節子両理事の司会に交替して始まる。開会のことばを塩沢理事、歓迎の挨拶を小林会長、乾杯は当真田町の会最長老(八十五歳)(どうも失礼)の花岡博先生の



▲みんなの心がひとつになって…(第2回総会から)

の中に入ってもらう。午後三時ごろ前の演奏のアンコールにと再度演奏、同三時二十分ころ一旦中断し、小林正子理事が会を代表して、消防音楽隊長に花束の贈呈(万雷の拍手がわきおこる)、三時三十分音楽隊の演奏で「ふるさと」(鬼追いしかの山)を会場一杯の大きな輪になって大合唱が終わり、柄沢清人理事の大声で、ふるさと真田町の繁栄と会の発展を祈つて万歳三唱したところ、真田町からは松尾教育長が登壇し、東京真田町の会の発展を祝い、センターの二階黄金の間が割れんばかりの万歳三唱となった。

田中理事の開会のことばで、総ての行事は滞りなく終了した。今年も町の皆さん方のご厚意により、菅平高原のレタス・キャベツ・りんご・きのこの入ったたくさんのお土産を戴いて再会を約し帰路につく。なお真田町農業協同組合、(財)真田町振興公社では「さなだフレッシュ産直」の宅配を開始しました。お知り合いの方へのご贈答にも最適です。お問い合わせは真田町役場へどうぞ。戴いたお土産も二百人分ですからトラック一台分はあったと思われまます。本当に有り難うございました。厚く御礼申し上げます。

(信州の東京十月号清水記)

東京真田町の会 昭和63年度決算報告書

自 昭和63年4月1日

至 平成元年3月31日

(単位円)

収 入 の 部			支 出 の 部		
科 目	予 算	決 算	科 目	予 算	決 算
年 会 費	500,000	419,000	設 立 準 備 費	50,000	47,000
設 立 総 会 費	600,000	648,000	設 立 総 会 費	1,650,000	2,573,175
真 田 町 補 助 金			会 報 発 行 費	150,000	340,000
運 営 費	300,000	300,000	会 議 費	100,000	145,000
設 立 補 助 金	900,000	900,000	事 業 費	100,000	0
広 告 収 入	0	205,000	事 務 通 信 費	150,000	316,110
寄 付 金	0	385,000	印 刷 費	50,000	172,000
雑 収 入	10,000	13,000	雑 費	50,000	135,110
真田町より補助 30年記念事業費			記 念 祝 儀	0	50,000
			予 備 費	10,000	0
		1,378,635	次 期 繰 越 金		470,240
合 計	2,310,000	4,248,635	合 計	2,310,000	4,248,635

上記の通り収支決算報告いたします。

平成元年 8 月 9 日 会 計 三 井 芳 郎

会 計 塚 田 恒 雄

上記の決算報告書は関係資料と照合の結果相違ないことを認めます。

平成元年 8 月 9 日 会計監事 横 沢 清 人

会計監事 塩 沢 和 政

東京真田町の会 平成元年度収支予算(案)

自 平成元年4月1日

至 平成2年3月31日

(単位円)

収 入 の 部		支 出 の 部	
科 目 金	額 金 額	科 目	金 額
前 期 繰 り 越 し 金	470,240	総 会 費	2,100,000
年 会 費 1,000×500	500,000	会 報 発 行 費	350,000
総 会 費 4,000×300	1,200,000	会 議 費	200,000
真 田 町 補 助 金	900,000	事 業 費	200,000
広 告 費	400,000	事 務 通 信 費	300,000
寄 付 金	100,000	印 刷 費	200,000
雑 収 入	29,760	雑 費	100,000
		予 備 費	100,000
		次 期 繰 り 越 し 金	50,000
収 入 合 計	3,600,000	支 出 合 計	3,600,000

私は「疎開つ子」：そして今

安田 一子（中組出身）

戦時中私は中組に疎開した一人です。省みればそれはすでに四十有余年を過ぎたはるか彼方の遠い思い出となりましたが、中組に生をうけた母の縁によりあの厳しい敗戦の色濃かった世相の中にあつて約三年間、お世話になった疎開

当時の思い出は善きにつけ、悪しきにつけ、子供心ながらそれは喜怒哀楽に満ちたものであつたように思います。田植時の「オケラ」そして秋の収穫時の「いなご」など、とにかくこわかつた。

そににもましていやだったのは「疎開つ子」ということでよくいじめられたことです。でも泣きたい気持ちをこらえて子供心にも負けるものかと歯をくいしばってがんばりながらみんなの後について過ごして来ました。しかしいっぽうでは、やさしいお友達のかい友情と励ましが



あつたことも忘れ得ぬ思い出となつています。あれから星霜を送ること四十有余年……五十六才になった私はいま、東京は「下谷」生れの生粋の江戸つ子で祭り事が大好きだった父の血を受けたりしく、お祭りが大好きで

「紅華陸」という女性のみの「みこし会」の会長としてがんばっています。親、子、孫、三代にわたって伝統ある「江戸みこし」を愛し、都内はおろか声がかかれば近県までも出かけて行きます。

老若男女が気持ちをひとつにして体をぶつけ合つて汗を流すあの「みこしかつぎ」の雰囲気は今の私にとって生き甲斐を感じとても楽しいものです。あの「疎開つ子」として、負けるものかとがんばった頃の根性が、今気力とともに十代、二十代の若者に負けるものかとがんばっている私のこの頃です。

広告御礼

日本ダボス第二号への広告をお願いしましたところ、多数の方々に御協力いただきありがとうございます。厚く御礼申し上げます。

寄付御礼

東京真田町の会に本年度も御芳志下さいました方々多額の御寄付厚く御礼申し上げます。

(敬称省略)

荒木 広之	石垣 節子
井出 正一	上原 辰夫
田中 静江	萩原 活美
亀原けさ子	渋谷 勉
長屋 京子	泰 志お
羽田 孜	堀内 長節
堀内 政	横沢新二郎
柳沢 幸子	若林幸一郎

閑話休題

平成元年も終わろうとしています。買物のレシートをながめる。「1円を笑う者は1円に泣く」と昔の人は言いましたが、1円玉が大事にされた年で1円玉の重要性を再認識させた年でした。

ふるさと訪問の企画について

十一月十八日情報連絡会を開催し第一回目の、ふるさと訪問をする事になりました。

来年の八月四日(出)「真田まつり」の当日、JR上田駅に十二時三十分集合。

(上野発十時・大宮発十時二十一分)バスに分乗、真田町の、名所・旧跡を見学した後、真田町総合文化会館又はレストランで町長さん、他真田町の皆さんを交えて(四時頃より)懇親会(二時間位)を行います。

その後、夕方より真田まつりの花火大会を見物し、宿泊所(菅平)に向かう予定であります。帰りは八月五日(日)上田発十五時四十五分の予定です。

アンケートのハガキをこの会報と共に送りしましたので、必要事項をご記入の上、必ずご回答をお願いします。

情報連絡会

荒木 孝一
石垣 節子
田中 恒夫
田中 芳明
横沢 清人

編集後記

◆「日本ダボス」も第二号を発行するはこびとなりました。これひとえに会員の皆様が、ふるさと真田町を誇りとして、現在もなお心に残る思い出をお寄せいただいたお陰です。感謝いたしています。

◆第二号といひましても、まだまだ不手際の点が多々あると思います。日進月歩の言葉のように、編集委員は頑張ります。今後とも会員の皆さんの御援助をお願い致します。

◆ご投稿をお寄せ下さい。お待ちして居ります。ご旅行のこと、職場の思い出など、御家族、お友達、知人などでも結構です。又、読後のご感想、記事、配列カットの入れ方などもお聞かせ下さい。

◆「東京真田町の会」は年会費一〇〇〇円です。(入会金は不要です)会費の振込み先は、

【東京1-255577】東京真田町の会宛お振込み下さい。新会員の方は新入会員と通信欄にご記入下さい。入会者で会費未納の方がいましたら、お振込みお願いします。

◆表紙の写真は冬の根子岳山頂よりアルプスをのぞむ。

祝 東京真田町の会 一会報2号

広げましょう 同郷の和と輪

あいうえお順

三東フォーム株式会社 代表取締役 大久保照男 (大日向出身) 本社 東京都新宿区舟町七 織田ビル TEL (03) 三五二一九七六(代) FAX (03) 三五二一九七六三	京浜容器株式会社 代表取締役 内海 清 (真田出身) 〒143 東京都大田区大森中二丁目二番二五号 電話 (03) 七六二一五一九五番(代) FAX (03) 七六二一五一八五番	国際浮出印刷株式会社 代表取締役 飯嶋 徳磨 (中組出身) TEL (03) 二九二一八七七 川口市 芝 四八七九 TEL (04八二) 六五二一三七四	有限会社マサックス 代表取締役 荒木 秀幸 (下原出身) 東京都板橋区舟渡二一十一七 TEL (03) 五三九二二二七六二 自宅 (03) 九三六一六九二三	みずぐ興業株式会社代表取締役社長 有限会社マサックス取締役会長 荒木 廣之 (下原出身) 東京都板橋区舟渡二一十一七 TEL (03) 九六六一二四二二 TEL (03) 五三九二二二七六二 自宅 (03) 九六五一四六九二
東京真田町の会 副会長 清水 清晴 (中横道出身) 東京都狛江市東野川三十二二 TEL (03) 四八九一〇七六三	勝田電設工業株式会社 代表取締役 塩沢 和政 (大日向出身) 東京都江戸川区西小松川町三七番二号 TEL (03) 六五二一八七六(代)	東京真田町の会 会長 小林 孝雄 (曲尾出身) 横浜市港南区日野四丁目四五一五 TEL (04五) 八四三一八〇四一	株式会社 英 (ハナブサ) 代表取締役 小市 英一 (真田町本原出身) 東京都世田谷区梅丘一三六一一二 TEL (03) 四二六一二四二二	ハウス建装株式会社 代表取締役 大塚 克彦 (真田出身) 東京都武蔵野市中町二一六一二 TEL (04二二) 五四一三二二一

東京で躍進を続ける 真田不動産グループ



WAKO真田ビル(自社ビル)1988年完成

業務内容

- 1F ●特選輸入洋品 WAKOショールーム
●総合不動産業 株式会社 真田不動産
- 2F 貸事務所
- 3F IMPERIAL HORIUCHI
インペリアル ホリウチ
- 6F

株式会社 真田不動産

代表取締役 **堀内 政**

(真田中学校上 元あさひ堂出身)

東京都足立区綾瀬6-30-8
〒120 (WAKO真田ビル1階)

☎03-620-2511(代)

自宅: 足立区青井4-4-10

☎03-840-3211

●真田町の不動産売却の折は、ご連絡願います。即金買い受けます。

祝 東京真田町の会 一会報2号

広げましょう 同郷の和と輪

有限会社 清水硝子建材

清水 征夫

(中原出身)
神奈川県大和市西鶴間二丁目一四一〇
TEL (〇四六二) 七四一七六四六
FAX (〇四六二) 七六一九八八七

東京真田町の会

理事 田中 恒夫

(横尾出身)
横浜市保土谷区峰岡町一〇九三一二
TEL (〇四五) 三三二一三九八二

東京真田町の会

会計理事 塚田 恒雄

(横尾出身)
千葉県柏市西山一〇一十一十八
TEL (〇四七) 七五〇八二三

ロシア料理 レストラン 渋谷ログスキー

オーナー シェフ 長屋 京子

(菅平出身)
本館 渋谷駅南口日本交通公社前大和田ビル2F
渋谷区桜丘一六一一三三和田ビル2F
TEL (〇三) 四六三二一九一

羽毛田工業株式会社
有限会社羽毛田工業株式会社

代表取締役 羽毛田 璋

(傍陽出身)
本社 千葉県柏市逆井四二二八一五
電話 (〇四七) 七四一八〇〇一
FAX (〇四七) 七四一八〇〇一
栃木県真岡市長田一七六一一
電話 (〇二八八) 四一七六八一
FAX (〇二八八) 二八八三

中央建設国民健康保険組合理事

社会保険 三井 周

(大庭出身)
事務所 東京都江戸川区東葛西七六一四
TEL (〇三) 六八九一三一九九
FAX (〇三) 六八九一三一九九
自宅 東京都江戸川区篠崎町三一九九
TEL (〇三) 六七七三三六六

東京真田町の会

会計理事 三井 芳郎

(大庭出身)
世田谷区船橋一四八八三三
TEL (〇三) 四八二一九三三三

アートメディア木精会主宰

洋画家 森本 幹生

(大庭出身)
川崎市中原区小杉陣屋町一五五七
TEL (〇四四) 七三三〇二六七

(株)TKC東京パートナー

会計事務所

代表取締役 関谷 義久

(戸沢出身)

〒231 横浜市 中区 日本大通 一八
マースビル3F
TEL (〇四五) 六六二二二〇一
〒211 川崎市 中原区 小杉町三二二九
TEL (〇四四) 七三三二二〇一
自宅 川崎市中原区小杉町二丁目四〇三三
TEL (〇四四) 七一〇〇五五

COMPUTER
CONTROL
COMMUNICATION

ハイテクに挑戦する山洋電気

3つのCは私たちの進む道です

『Cマーク』が象徴する山洋電気は、電算機・制御・情報の3つの分野で活躍し、上田市周辺の5工場からは、コンピュータ関連電子機器や産業用ロボット自動制御システム、通信用電源装置など、世界のトップレベルのハイテク商品を全世界に送り出しております。

これからも皆様と共に歩んでいきます

生産の主力である上田事業所は、従業員も1600名となり、真田町からも100名近くの方々に協力をお願いしております。山洋電気はこれからも、皆様と共に成長し発展を続けたいと願っております。



山洋電気株式会社

代表取締役社長 横沢 新二郎 (荒井出身)

上田事業所 長野県上田市緑が丘1-1-7 ☎0268-22-8585 (代表)
緑が丘工場、塩田工場、青木工場、築地工場
富士山工場 (建設中)
川口事業所 埼玉県川口市上青木西1-6-41 ☎0482-53-3441 (代表)
本社 東京都豊島区北大塚1-15-1 ☎03-917-5151 (大代表)
営業所 大阪、名古屋、仙台、上田、北陸、静岡、広島、九州

祝 東京真田町の会 一会報2号

広げましょう 同郷の和と輪

株式会社東部財務情報センター
堀内税務会計事務所

堀内 茂雄
(中横道出身)

〒130 東京都墨田区業平四一九一三
TEL 六二五二二九一
FAX 六二一〇一六四

株式会社牧内会計

社長 牧内 操
(萩出身)

埼玉県川口市青木二二二一七
TEL (〇四八二) 五六一三四一四

新お茶の水法律事務所

弁護士 山口 元彦
(横沢出身)

千代田区神田淡路町一〇九一
ニューお茶の水ビル七〇二号
TEL (〇三) 二五五七九六一

柳澤 義祝
(萩出身)

自宅 東京都狛江市猪方三二六二二〇
TEL (〇三) 四八〇一八三九
勤務先 東京都文京区本郷二二二一四
ヤマト商事株式会社
TEL (〇三) 八一三三九〇五

東京真田町の会

理事 横澤 清人
(大畑出身)

東京都中野区上鷺宮二一八一四五
TEL (〇三) 九九九一四五三〇

三和梱包興業株式会社
三和興産株式会社

代表取締役 上原 辰夫
(中横道出身)

〒335 埼玉県戸田市新曽南三丁目五番二十号
電話 (〇四八四) 四二二四六一代、四番
FAX (〇四八四) 四二二一四六五番

営業種目
一般貨物運送事業
輸送及国内梱包業

安田火災海上保険代理店
自動車保険、火災、総合保険
アイ・エヌ・エイ生命保険(株)募集代理店

〈建築・不動産で活やくしています〉

建築設計施行・土地建物売買

株式会社 塚田工務店

代表取締役 塚田 勝人
(戸沢出身)

千葉県松戸市上矢切一一〇〇番
TEL 〇四七三三六三〇五五四
FAX 〇四七三三六三〇八七八
唄「矢切の渡し」のそばです。是非お立ち寄り下さい。

育ててください
ふるさと結ぶ
ホットラインに

主な事業

(ふるさと宅配便、特産物の開発販売、真田まつり等々のイベント、菅平高原自然館、古城緑地広場の運営管理他)

長野県小県郡真田町大字長7178番地の1

財団法人 真田町振興公社

理事長 若林 康朗

TEL 0268-72-2200 内線54

バイク便の最大手!!

◆MCA無線・コンピュータ・バイク装備◆

◆200km圏内配送・バイク100台◆

◆支店拡張のためライダー募集中◆

TEL 03-980-7221(池袋)



JAPAN City Link

株式会社

ジェシエル

代表取締役 横沢 正晃 (大畑出身)

本社 〒170 東京都豊島区東池袋2丁目38番4号

TEL 03(980)7201(代) TEL 03(980)7770

真田町民憲章

私たちは、豊かな自然に恵まれた真田町の町民です。

私たちの真田町は、真田氏発祥の郷であり、たくましい町民の不屈の精神によって大きく発展し続けている町です。

私たちは、真田町の町民であることに誇りと生きがいを持ち、よい町民となるために、町民憲章を心のよりどころとします。

- 1 自然を愛し環境を整え美しい町をつくります。
- 1 生産に励み豊かなくらしのある町をつくります。
- 1 お互いに助け合い暖かい心がかよう町をつくります。
- 1 からだを鍛え心を豊かに健康な町をつくります。
- 1 教養を高め創意あふれる清新な町をつくります。

日本ダボス (平成元年 12月20日 発行)

発行 東京真田町の会 会長 小林 孝 雄

編集委員 清水 清 晴 三井 芳 郎 上原 辰 夫
横沢 清 人 長屋 京 子 森本 幹 夫
小林 正 子

印刷 (有)中沢活版所
